

## 京セラ株式会社の協力により博士課程学生を対象とした PBL(Project Based Learning)集中講義を実施

東京工業大学イノベーション人材養成機構（IIDP）は、2022 年度 4Q に、京セラ株式会社の協力により PBL(Project Based Learning : 課題解決型学習)として博士後期課程キャリア科目「博士企業ビジネス研究開発戦略実践研修」を集中講義で実施しました。

本学の大学院 10 コースから博士後期課程学生 11 名が参加し、京セラにおける研究開発・ビジネスの実態に触れるとともに、チームに分かれてグループワークとして新たなビジネスを検討し、提案する貴重な経験をしました。

本集中講義は、12 月 12 日（月）、12 月 26 日（月）、1 月 16 日（月）の 3 日間、同社のみなとみらいリサーチセンターで実施しました。

第 1 回目の 12 月 12 日には、京セラの大崎哲広氏から、同社の研究開発の体制や、実際の研究開発の進め方などについて講義を受けました。さらに具体的な研究開発の事例として、第 5 世代携帯電話や自動運転などについて同社の担当者から説明を受けました。



第 2 回目の 12 月 26 日には、履修学生が 3 つのグループに分かれて、「京セラの開発部門の一員として社会課題を解決する新製品・サービスを企画する」を課題に、2 グループが「環境・エネルギー」、1 グループが「医療・ヘルスケア」を対象分野としてグループワークに取り組みました。

それぞれのグループでは、まずチームビルディングとして、メンバーの自己紹介をした後、チーム名を決めました。そして、ビジネスアイデアについてブレインストーミング、グルーピング、強制連想法などを順に進めた後、ビジネスモデルキャンパスの作成に取り組みました。

グループワークにおいては、京セラで実際に研究開発を担当している社員の方がファシリテーターとして各グループの活動のサポートをいただきました。



最終日の 1 月 16 日は、引き続きグループワークとして、これまでの検討結果を踏まえて Customer Value Chain Analysis(CVCA：顧客仮連鎖分析)を行いました。そして、最後に各グループから成果発表を行いました。

発表では、公共施設と IT を連携させた医療サービスや、トレーニングジムと連携して個人で SDGs にも貢献できるサービス、無意識に発電して位置情報を知らせるサービスといった新たなビジネスについて具体的な提案があり、学生間や講師との間で活発な質疑応答が行われました。



講義に参加した学生からは、「普段、基礎研究を行っているためか「創造性」に固執して斬新なアイデアを模索しがちで、ステークホルダーの役に立つことをほとんど意識してこなかった。」「一連のアイデア出しから、ビジネス化というものを学び、非常に勉強になった。この経験を活かし、大学、企業で研究した技術を使用したサービスを創造していきたい。」「様々な分野の人が集まって、意見を出し合うことで自分一人では思いつかないアイデアを得ることができた。」などの感想が寄せられました。

この集中講義を通じて博士課程学生は、研究や技術がビジネスにつながるまでのプロセスについて企業の現場において多様な分野の学生と協力して考えることで、将来のキャリア構築に向けて貴重な実体験をすることができました。

今回の集中講義に協力いただきました京セラ株式会社に改めて感謝申し上げます。

東工大では、大学院生向けのキャリア教育として、通常の講義だけでなく、企業の協力を得て本科目のような PBL にも取り組んでいます。学生が、在学中から企業における取り組みについて理解し、自らのキャリアプランをしっかりと考えることができるようにこれからも取り組んでまいります。

担当：東京工業大学イノベーション人材養成機構

Email: [Email iidpinfo@jim.titech.ac.jp](mailto:Email iidpinfo@jim.titech.ac.jp)